

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

2022年4月16日現在

研究課題名	カザフスタンにおける子どもの権利と福祉の実態に関する研究	
申請者	氏名	所属機関・職
	村知 稔三	青山学院大学・教授

研究成果の概要

申請者はスラブ・ユーラシア研究センター図書室と北海道大学附属図書館を2021年7～8月に利用した(2022年2～3月に予定した2回目の利用は体調の関係で中止)。その間に、1990年代以降のカザフスタンの児童福祉、とりわけ孤児・無保護児の実態と、その受け入れ先である里親、養親、後見人・保佐人、児童福祉施設の現状に関する紙媒体の資料——『カザフスタン統計年報』(1993～2009年版)や『カザフスタン人口年報』(1993～2007年版)、『カザフスタン地域年報』を閲覧・入手した(他の時期については同国の文部科学省や国民経済省統計委員会の公式サイトで公開)。また、それらを用いた草稿「カザフスタン子ども学研究序説(4)——孤児の現状と生活施設、里親家庭、後見・保佐の役割——」をまとめたものの、いっそうの推敲が必要なため、公表は未だである。

他方、本課題を含む「旧ソ連諸国の子どもの権利と保育・福祉の実態に関する比較研究」という中期的テーマの一環として、4番目の対象国アゼルバイジャン共和国についての研究も開始し、関連資料の収集にあたった。この成果は9月の世界子ども学研究会第27回研究例会における研究発表を踏まえた下記の拙稿②である。

また、編者の都合で刊行が遅れている拙稿「体制転換後のロシア、ベラルーシ、カザフスタンの社会と保育」幼児教育史学会監修『幼児教育史研究の新地平』下巻(萌文書林)は3月に初校が済み、近く出版される予定である。

主な発表論文等(雑誌論文、学会発表、図書 等) ※謝辞の有無について明記願います。

拙稿①「<コラム>19世紀後半～20世紀前半のロシアの保育」幼児教育史学会監修『幼児教育史研究の新地平』上巻(萌文書林、2021年)329～331ページ／②「アゼルバイジャン子ども学研究序説(1)——概要と人口動態——」『青山スタンダード論集』第17号(2022年)97～134ページ(謝辞あり)。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト(応募中の研究プロジェクトを含む)

基盤研究(B)「グローバル化時代の子ども観の質的転換と子どもの権利保障政策に関する比較社会史研究」(研究分担者)

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。